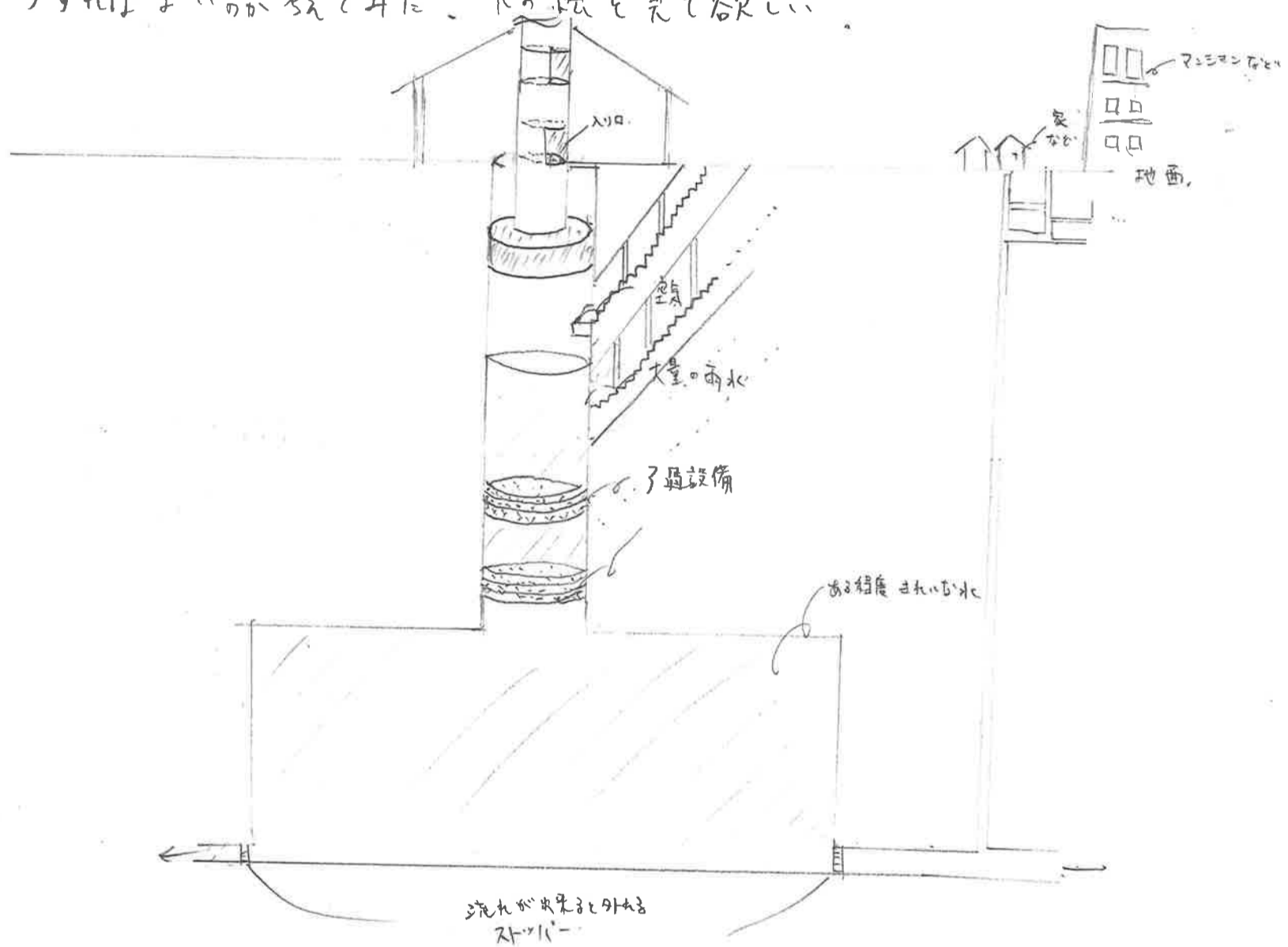


< 災害が起こった後に衛生的に住めるために >

災害が起こる後に一番大変なことは自分の家が壊れてしまったり、水道や電気が止まってしまうと使えないということだと考えられる。電気が使えなくなると夜に町の中が真っ暗になって危険であったり風呂に入るためにお湯をわかせることもできず、衛生的にも悪い。しかし、電気の供給が止まっても明かりは「火」が使え、風呂であっても水を火で温めてシャワーとして使ったりすることが出来る。でもどうしようもないのが「水」が使えなくなってしまう時である。水が使えないと風呂にも入れないし、トイレも使えない。ましてや飲み水が無いと生きていくのが難しいと思う。だから、水をどのようにしてためておき、災害が起こってしまった後に全ての人が十分な水を使えるようにするにはどうすればよいか考えてみた。下の絵を見て欲しい。



この設備は雨水を^{ためて}ろ過して人が使える水にかえる人力の設備で、電気を使わず入口と書かれた部分に人が乗ることによって重みがかかって雨水を押し水を流れることで家やマンションなどの建物に水を送るものであります。ただこの絵だけでは細かい書き出し、少し無理な所もあると思う。でも、この絵の中で出来ないような所も現代の技術を使えば、出来るようになると思う。水を貯めることは水道管を使うことで設備を作るための予算は少なからずかかるとは思うし、雨水をためることが無理で川の水や海の水を使っている過剰な技術を上げることで作ることは可能であると思う。

何故この様な設備を考えたのかといわれると、学校で物理の授業に習ったことを少し複雑に考えて規模を拡大してみたが安全に電気を使わずに水を運ぶことが出来ると思っただけです。